

公益財団法人横須賀芸術文化財団
令和7年度第2回評議員会
議 事 録

（令和7年6月26日開催）

公益財団法人横須賀芸術文化財団
令和7年度第2回評議員会
議 事 録

- 1 開催日時** 令和7年6月26日（木）10時30分から11時30分まで
- 2 開催場所** 横須賀市産業交流プラザ 第1会議室
- 3 出席者** 評議員総数 5名
出席評議員 3名
上田滋、下里矩生、安田憲二
出席理事 1名
福本眞和（業務執行理事・常務理事）

4 議長 下里矩生

5 決議及び承認事項

- 議案第4号 令和6年度事業報告及び決算について
議案第5号 役員の任期満了に伴う選任について

6 報告事項

- ・令和6年度第3回理事会以降の理事会の決議事項について
- ・令和6年7月1日以降の職務の執行状況について
- ・特定天井改修工事について

7 議事の経過概要及びその結果

定刻に出席評議員全員の着席を確認し、芦川事業課長が開会を宣言。

定款第18条の規定に基づき、出席した評議員の互選により下里評議員が議長に選出され、併せて、定款第22条第2項の規定に基づく議事録署名人となった。

下里議長が定款第19条第1項に規定する定足数を満たしていることを確認し、本評議員会が有効に成立した旨を宣言。

下里議長が各議案を上程し、事務局に説明を指示し、その後議案の審議に入った。

（1）議案第4号 令和6年度事業報告及び決算について

芦川事業課長（事業報告）及び佐久間業務部長（決算）が詳細を説明。

事業報告については、公益財団法人横須賀芸術文化財団は、横須賀芸術劇場及び横須賀市立ベ이스クエア・パーキングの指定管理者として、4期目となる指定管理期間の初年度を終了した。

令和6年度は、特定天井改修工事のため、令和6年7月から大劇場及びリハーサル室が長期休館に入った。改修工事に際し、関係者との連携を密にし、頼れる現場として主体的に工事の進捗をサポートするとともに、令和8年度の利用再開に向けた施設・設備の維持管理に努めた。また、小劇場の利用促進に向けた新たな取り組みや固定費の見直しなど、収支バランスを意識した効率的な管理運営に努めたほか、これまでの管理経験を活かし、施設の長寿命化と事故防止のためのファシリティ・マネジメントの推進及び地下駐車場の安全な管理、安定した経営に取り組んだ。

芸術普及事業においては、当劇場とゆかりの深い作曲家の團伊玖磨氏の生誕 100

周年を記念した「オペラ『夕鶴』(セミ・ステージ形式)」や、横須賀市出身の世界的ピアニスト野島稔氏の功績を称えた「野島稔メモリアル・コンサート」など、記念的な公演を実施した。また、小劇場において、新たなポピュラーミュージックのライブシリーズ「Yokosuka Bayside Breeze」をスタートさせた。大劇場の休館に伴い、横須賀市文化会館を会場に劇場開館以来人気を博しているオリジナル公演「アメリカン・サウンド・イン・ヨコスカ」など3公演を実施するなど、年間を通して多様なジャンルの公演を実施し鑑賞機会の提供に努めた。さらに、令和8年度に予定する音楽フェスの開催に向け、地域連携の強化や準備などに取り組んだ。

芸術育成事業においては、横須賀市文化会館で劇場合唱団と少年少女合唱団の初の合同演奏会「ウィンター・コンサート」を開催したほか、若手演奏家の支援、アーティスト派遣事業等の取り組みを通じ、次世代の芸術文化の担い手や、市民の文化・芸術活動を育成・支援した。

決算については、当初から特定天井改修工事のための長期休館に伴い、事業収益の大幅な減収を見込み、費用についても、特に固定費で占める施設の維持管理費の抑制を図り、例年と比べコンパクトな規模の予算を組んだ。結果として収益面では、小劇場及び駐車場の施設利用や実施した公演チケットの販売が堅調に推移したほか、令和6年の光熱費高騰に対する横須賀市からの補助金等により、職員の人件費上昇などの課題はあったが、黒字決算となった。

一般正味財産期末残高は263,927,621円、指定正味財産期末残高は1,239,781,889円、正味財産期末残高は1,503,709,510円で、前年度と比べ9,762,118円増となった。また、公益財団法人の認定上の3つの財務基準については、すべてクリアした。

総じて令和6年度については、黒字決算となったが、大劇場の休館は来年の夏まで続くことから、引き続き、収支の動向に注視しながら、日々の運営に努めることなどが説明された。

続いて、去る令和7年6月4日に池田・長堀両監事によって行われた、令和6年度における理事の職務の執行についての監査では、事業報告は法令及び定款に従い法人の状況を正しく示していること、理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実認められないこと、内部管理体制の整備に関する理事会決議及びその体制下の理事の職務の執行が相当であること、計算書類及びその附属明細書並びに財産目録は、法人の財産及び損益の状況をすべて重要な点において適正に表示していることが報告された。

この審議事項に対し、次の質疑応答があった。

- ・安田評議員：県民ホールの閉館などの影響はあるか。
- ・佐久間業務部長：閉館に伴い、プロモーターを中心に問合せが増えており、影響はあると見ている。
- ・安田評議員：今後の収支の見通しを説明されたい。
- ・佐久間業務部長：現指定管理期間は特定資産の取崩しをしない想定でいる。

音楽フェス特定資産を積み増ししており、現時点では資金的な問題はないと考えるが、申請時よりコストは上がっているため、事

業収益の上積みに努めるなど、収支バランスを維持していきたい。

- ・ 上田評議員：三笠公園野外ホールと連携する予定はあるか。
- ・ 芦川事業課長：現時点で連携の予定は無い。内容がバッティングしないように注意する。
- ・ 上田評議員：人件費が上昇している。今後の対策を説明されたい。
- ・ 佐久間業務部長：給料体系は横須賀市に準じているが、ここ数年は毎年のようにベースアップしている。収支バランスを維持する上で、将来的に体系の見直しを検討する必要もあると考えている。

以上、下里議長が諮った結果、全員一致をもって原案のとおり承認された。

(2) 議案第5号 役員の任期満了に伴う選任について

佐久間業務部長が詳細を説明。

現在の役員は、本評議員会の終了をもって、池田亨監事を除く全員が任期満了を迎える。令和7年度第2回理事会(令和7年6月11日に開催)議案第8号において、次のとおり後任の候補者が選出されたため、それぞれ選任したい。

＜理事＞

鹿島勇氏、櫻井和秀氏、島内太郎氏、高橋隆一氏、中村丁次氏、平松廣司氏、福本眞和氏

＜監事＞

長堀薫氏

また、高橋隆一氏は新任、その他の候補者は重任であり、任期については、本日から令和9年6月開催予定の定時評議員会までとなること、本評議員会において選任された場合に、即時就任する旨の承諾を得ていることが説明された。

評議員から質疑がなされなかったことから、下里議長が各候補者について個別に諮った結果、すべての候補者について、全員一致をもって原案のとおり承認された。

(すべての被選任者は、即時就任した。)

(3) 報告事項

・ 令和6年度第3回理事会以降の理事会の決議事項について

佐久間業務部長が報告。

令和6年度議案第9号では、令和7年度事業計画及び予算が審議され、承認されており、長期休館を反映し、可能な限りコンパクトな内容としたこと。1年後に控える大劇場のリニューアルオープンに向けて期待感を高められるよう、選りすぐりの事業を展開し、また、極力、特定資産の取崩しに頼ることなく収支バランスを維持できるよう運営することなどが報告された。

・ 令和6年7月1日以降の職務の執行状況について

芦川事業課長が報告。

芸術劇場指定管理業務に係る横須賀市宛て月次及び年次報告を行ったことなどが報告された。

・特定天井改修工事について

芦川事業課長が報告。

特定天井改修工事の進捗状況などが報告された。

この報告事項に対し、次の質疑応答があった。

- ・安田評議員：客席床については、検出されたアスベストへの対応として、既存タイルの上に新しいタイルを重ねて封印する工法になると聞いている。
床面に段差が生じることはないか。
- ・佐久間業務部長：監理者より段差は生じない旨の説明を受けている。

以上をもって、議事全部の審議及び報告が終了したので、11 時 30 分、議長が閉会を宣し、解散した。

以上の決議を明確にするため、この議事録を作成し、議長が記名押印する。

令和 7 年 6 月 26 日

公益財団法人横須賀芸術文化財団

議 長
評 議 員

下 里 矩 生

印

本議事録の作成にかかわる職務を行った者の氏名

公益財団法人横須賀芸術文化財団

常務理事（事務局長） 福本眞和
業務部管理課 渡邊信博